

展示の部 検討事項 ①

1 県中文祭での全国出品作品の選出について

毎年、沖縄県から全国中文祭へは、国語(書道)10点、美術(絵画)10点の計20点の作品が出品されています。これらの作品は、国語(書道)および美術(科)専門部による選考を経て決定されており、その質の高さと実績は年々注目を集めています。また、他の教科の作品に対する期待も高まっています。しかし、県中文祭の出品作品数は増加していますが、質的な内容の落ち込みや、数量だけの内容の伴わない出品等も見受けられます。

こうした状況を受け、常任理事会では全国作品の選考枠を各専門部に拡大し、これまで6月に行っていた全国作品の選考を、12月に開催される県中文祭で実施することを提案します。

この選考は、各専門部を中心に次年度の全国出品作品を選定するものであり、地区大会、県大会、全国大会への連続性を持たせるとともに、生徒の制作意欲を高め、芸術・文化のさらなる発展と向上を図り、各専門分野の充実を目指すものです。

また、展示スペースや展示パネルの確保が困難になっている現状を踏まえ、(展示期間の延長や、舞台の部との別日程開催、別施設での開催など)今後の持続可能な県中文祭、展示作品の充実を視野に入れ、検討を重ね取り組みを進めます。

2 選出方法

各地区中文祭より県中文祭へ出品された作品の中から、各専門部が「展示部門 ○○専門部最優秀賞」を定め、全国出品選考の推薦作品とする。

※専門部最優秀賞は1～3年生の作品を対象とし、全国出品作品は年度を跨ぐため、1～2年生の作品を対象とする。

国語(書道)より5点、美術(絵画)より5点、合計10点を選考し次年度の全国中文祭へ出品する。

※全国各開催地の展示募集内容に合わせた選考数を確保する。

各専門部より選考された全国出品作品の中から、合計10作品前後を次年度の全国中文祭へ推薦する。

※1年生の作品も対象となり数も増加が見込める。スケッチコンテストやアートコンクール、社会科新聞など別事業の作品も対象になり、展示作品の充実が見込める。

全国大会開催地の展示状況(募集内容)を考慮し選考し出品する。

※全国大会開催地の展示スペースや作品輸送に関して制限があるため。

3 表彰について

全国出品推薦作品には、大会開催地中学校文化連盟より賞状が授与される。

※全国大会開催地文化連盟からの賞状が授与される。

全国出品選考作品へは、県中文連会長より「展示部門 ○○専門部最優秀賞」とし賞状を授与し他作品との差異を明確にし(特別感を付与し)制作意欲の向上を目指す。

※選考され候補作品であっても、開催地の展示募集状況により出品困難な場合も予想されるため、県中文連より賞状を授与。

全国大会への連続性を実現し、作品の質と内容の向上を目指す。

※賞状は、地区(出品)→県(出品)→県(最優秀)→全国(出品)と連続した形式となり、最大4枚となる。

4 持続可能な展示発表の充実を目指して

各地区の中文祭開催状況から今後も展示部門を継続するために作品の厳選や開催方法の工夫が必要である。

※これまでは、準備日も含め、週末の開催。代休も取れない状況がある。

中文祭に関わる職員の負担軽減も考慮し、展示部門開催方法の工夫が必要である。

※展示開催日の延長や舞台の部と別日開催、別施設での開催など

5 その他、確認事項

・令和7年8月に開催される第25回全国中文祭わかふじ大会(静岡県開催)への出品作品選考に関しては、現行の選考(令和7年4月より募集、6月選考)と同様とする。

・令和7年12月開催の第31回沖縄県総合文化祭出品作品より、第26全国中文祭東京大会への出品作品の選考、推薦していく。

展示の部 検討事項 ②

1 公益財団法人 日本教育公務員弘済会より

現在、各県教弘済では、その県独自に生徒作品をメインとした教育カレンダーを作成しており、令和8年度、弘教済沖縄県支部も(教育文化事業の一環として)取り組む運びとなった。内容として、県内小中高、特別支援校より、各校種3ページの挿絵、それぞれ3ヶ月分を選定しカレンダーに掲載する。中学校生徒作品を県中文祭等の事業より選出推薦の協力依頼があった。

2 選出方法

①令和8年度カレンダーの作品募集、作品選考について

※令和7年5月頃、全国中文祭出品作品募集と併せて募集し選考する。その際、カレンダーへの作品掲載の可否を確認する。

②令和9年度カレンダーの作品募集、作品選考について

※令和7年度、12月開催の第31回沖縄県中文祭にて選考を行い、次年度のカレンダー掲載作品とする。

3 その他

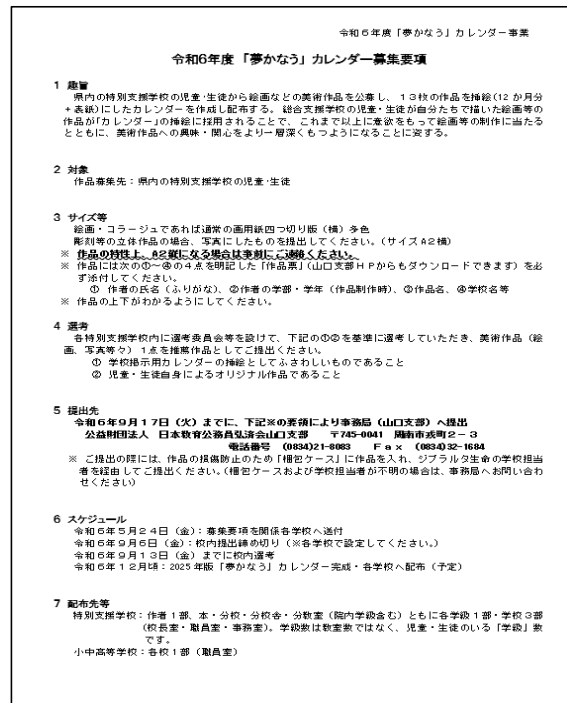
教弘済より令和7年度初旬に、趣意書、事業内容、募集要項等の送付を予定とのこと。

※販売は無し(全小中学校、高校、特別支援学校へ3部ずつ配布の予定)、著作権に関しては生徒自身が維持する。

参考資料:他県同事業取り組みについて(千葉県「きょうこう千葉」紹介・山口県「夢かなうカレンダー」募集要項)



日教弘 千葉支部 2024年3月発行



日教弘 山口支部 令和6年募集要項